

提案大学	早稲田大学
連携大学	—

早稲田先端研究基盤共創プロジェクト（W-EPOCH）

**設備の網羅的な自前保有から、外部設備や研究データを含む研究資源を戦略的に組み合わせた研究基盤への刷新
— 都市型私立大学の特性を踏まえた研究基盤高度化の新たなモデルを提示、我が国の研究基盤改革を牽引・展開 —**

- コアファシリティ、ARIM、BINDS、共・共拠点の特長の融合等を通じて、GRCのリーダーシップのもと共用化をさらに発展・高度化
- 共用化のみならず、設備利用そのものを新たな価値創出につなげる研究基盤を構築

先行事業による共用化等の実績

コアファシリティ構築支援プログラム（コアファシリティ）	- 研究基盤整備部会（統括部局）の設置 - 約120名の技術職員組織と全学管理 - MaiML開発・普及推進
マテリアル先端リサーチインフラ（ARIM）	2002のナノテクノロジー総合支援プロジェクトから、一貫して参画し、設備・技術・ノウハウを提供
創業等先端技術支援基盤プラットフォーム（BINDS）	アカデミア・企業からの依頼に基づき、医学・薬学・生物学的の空間的情報を分析・提供
共同利用・共同研究拠点（共・共拠点）	材料創製と評価にかかる設備・装置、および操作のノウハウを提供

Global Research Center（GRC）による 全学的・戦略的マネジメント



設備利用から新たな価値を生み出す研究基盤モデルへの転換 （W-EPOCHの7つのプロジェクト）

- | | | |
|-------|------------|--|
| 3つの循環 | ① 現場知の循環 | <ul style="list-style-type: none"> 現場に蓄積される知見を、機器利用プロセスの改善、新規用途開発、次世代機器開発等につなげる高付加価値情報として体系的に収集・構造化 |
| | ② 研究データの循環 | <ul style="list-style-type: none"> 研究データの標準化、蓄積、共有および再利用を通じて、研究活動を単発的な成果創出から継続的価値創出へと転換 |
| | ③ 設備利用の循環 | <ul style="list-style-type: none"> 自大学設備と外部設備を戦略的に組み合わせることで、設備の保有から活用へと軸足を移し、研究基盤の柔軟性と効率性を高める |
-
- | | | |
|-------|-----------------------|---|
| 4つの土台 | ④ 研究基盤オフィスの創設 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 研究基盤改革を全学的に推進する統括機能組織として「研究基盤オフィス」を創設。研究設備、研究データ、技術職員等を一体的に設計・管理。 |
| | ⑤ 研究基盤IRの整備とインセンティブ設計 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「研究システム」と「財務システム」の連携による全学的研究基盤IRシステムを構築。共用化インセンティブを拡充。 |
| | ⑥ 技術職員の育成・確保 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 技術職員を大学全体の研究基盤を支える共通資産として再定義。柔軟な配置を可能とし、分野横断的研究支援および施設間接続機能を強化。 |
| | ⑦ W-EPOCHセンターの整備 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 技術職員によるコンシェルジュ機能を中核として、研究課題に応じた計測・解析プロセス設計、および他施設・外部機関への接続支援を実施。 |